

赤こんりポート

松村美沙枝リポーター



フローティングスクール事前学習プログラム

生きているびわ湖

11月21日、老蘇小学校の5年生を対象に出前授業「生きているびわ湖」が開催されました。この出前授業は滋賀県地球温暖化防止活動推進センターが、フローティングスクールの事前学習として県内の受講希望校に対して行っているものです。生徒たちはびわ湖の生い立ちや生態系、温暖化で受けるびわ湖や自分たちへの影響を学び、「びわ湖の深呼吸（全層循環）を初めて知った」「フローティングスクールで新種のプランクトンを発見したい」など、うみのこへの乗船を前に期待を膨らませていました。

赤こんりポート

山田恵美リポーター



まちのええもん たからもん はちまんもん

皆さんは「はちまんもん」をご存じでしょうか。はちまんもんは近江八幡のよさを受け継ぎながら、新しさを感じさせる逸品を認定した近江八幡の新・地域ブランドです。12月6日、白雲館の観光案内所内にあるはちまんもんアンテナショップを訪れると、伝統を大切にしながらも、まちの資源の活用や循環を生み出す、作り手の思いが詰まった商品が並んでいました。わくわくするような新しさの中に、このまちらしさを感じるはちまんもん。まちの、みんなのたからもんになっていくのではと思いました。

赤こんりポート

馬場利男リポーター



「地域の子どもは地域で守り育てる」

近江八幡・竜王少年センター 30 周年記念

地域住民ボランティアと学校教員からなる「近江八幡・竜王少年補導委員会」と「近江八幡少年センター」が設立30周年を迎え、11月16日に記念事業が開催されました。第1部では歌とピアノのコンサート、第2部では記念式典、第3部では高知県出身の俳優で作家、また依存症予防教育アドバイザーでもある高知東生さんの講演が行われました。会場には少年補導委員や学校関係者、一般の参加者など大勢の人が来場。薬物使用の恐ろしさを具体的に知ることができ、勉強になったのではないかと思います。

赤こんりポート

東知樹リポーター



秋が彩る七五三

秋の景色が素晴らしい11月20日、日牟礼八幡宮では七五三参りが行われていました。カラフルな風船をもらい、七五三の衣装に身を包んだ子どもたちは、満足そうに楽しんでいました。また、七五三以外にもお宮参りや観光で訪れている人もたくさんいて、歴史のある建物にそれぞれ思いをはせているようでした。道沿いにはたくさんの松ぼっくりなどが落ちていて、秋を感じることができました。皆さんも四季を感じに、いろいろなところを訪れてみてはいかがでしょうか。

12月1日



卯から巳へ左義長ダシ引継ぎ式

新町三丁目の旧伴家住宅で、入口正面に展示されている左義長のダシ飾りを交換する「ダシ引継ぎ式」が行われました。このダシ飾りは、近江八幡左義長保存会の有志らが5月から半年かけてコツコツと作成された、本番の左義長と同じ大きさのものです。今回は「永遠」をテーマに、へびの周りに13町と保存会の法被を描いたかんざしが並べられ、豊作や魔除け、祭りとダシの奉納が永遠に続くことを祈念して作られました。昆布や雲平餅、寒天、玉ネギの皮など、21種類の山海の食材で作られたダシ飾りは、再来年の12月まで展示される予定です。

12月7日



障がいの有無を問わず 共生社会をめざして

ふくふくフェスタおうみはちまんを開催

障がいに対する理解を深め、障がいの有無を問わず、あらゆる分野で活動する人たちの交流の場とすることを目的に「ふくふくフェスタおうみはちまん」がひまわり館で開催されました。体験・物販・展示の部では、点字名刺の作成体験や、絵手紙づくり体験、小物やお菓子の販売など多くの人でにぎわっていました。午後からのステージ発表では、フラダンスや手話歌、本市出身のシンガーソングライター<sup>わかば</sup>さんによるライブが行われ、曲が終わるごとに観客から大きな拍手がおくられました。

11月17日



弥助の縁 モザンビーク大使を迎えて武者行列

戦国武将などに扮した人たちが練り歩く「あづち信長まつり」が、文芸の郷をメイン会場に開催されました。武者行列には、織田信長や羽柴秀吉、徳川家康、佐々木六角などの武将に、姫、足軽、侍女らに扮した約200人が参加し、沿道の人たちは戦国時代さながらの姿に見入っていました。この武者の中には、在日モザンビーク共和国臨時代理大使の息子ニコラス・イデルソン・ニャルンゴさんも参加し、文化交流を楽しんでいました。会場では地元の農産物や特産品が販売される楽市楽座や飲食ブース、キッチンカーなどが出そろい、多くの観光客でにぎわっていました。

12月8日



昔ながらのしめ縄を作ろう！

親子しめ縄教室

島コミュニティセンターで、稲わらを使った昔ながらのしめ縄づくりが行われ、親子10組30人が参加しました。たいまつ名人が縄を<sup>な</sup>うポイントを丁寧に教えてくれると評判で、今回で10年目。参加人数は延べ500人を超えました。参加者は穂が出る前に刈り取った稲わらや、稲穂が付いたままの稲わらを受け取り、講師の指導を受けながら、力を込めてしめ縄を作っていました。親子で参加した島小学校5年生の奥西陽菜さんは「2回目の参加です。前より上手に<sup>ひな</sup>うことができうれしい。しめ縄はお正月に玄関に飾ります」と笑顔で話していました。